



TITLE:

天の川

AUTHOR(S):

CITATION:

天の川. 天界 1941, 21(244): 319-319

ISSUE DATE:

1941-09-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168262>

RIGHT:

出来る。大氣はどうか？ 此の現象を觀測して色々の意味で實に興味深く感じた。大氣物理學的にみて何等根據なきものであらうが正に interesting phenomenon ではある。尙此の現象の氣象狀態から氣付いたことは、一般に低氣壓通過後、又、冬型の氣壓配置による北面氣流等の如き強氣流が流行せる時は、現象はほとんど觀られなかつた。これに反し春季夏季等の如く高氣壓の勢力が内地一帯を、ゆるやかに覆つてゐる場合特に顯著であつた。

附 言

近時、太陽物理學の進歩に伴ひ黄道光研究の意義深きものがあります。太陽コロナは太陽現象中、最も地球に近きものであり、その地球への影響は太陽黒點同様（黒點とコロナの深い關係を思ふとき）大きなものがありませう。更にそのコロナの延長であると云はれる黄道光こそ地球への影響更に大なるものがありませう。吾々の使命、重且大なるを痛感いたすものであります。私の東伊豆在所中の觀測は微かなものではあります、當時太陽黒點最盛期でもあり、又一般に觀測者も減少して居り、私の上記の拙い觀測が、將來微かでも黄道光究明への一資料となり得ますれば最上の光榮といたすものであります。今回は觀測總括及び特別觀測の概要を報告いたしました次第であります。尙、詳細な觀測記録及び當時の氣象觀測をいたしてありますので、整理の上、興味ある結果が出ますれば、後日、本誌に發表させて頂きたいと思つて居ります。此の觀測期間中種々御指導御鞭撻を賜つた山本一清博士、並びに瀬戸觀測所の本田實氏に對し深厚なる感謝と御禮を申し上げます。尙又觀測地にあつて御便宜をはかれし片瀬製鹽所（現日本均熱利用製鹽會社）の諸氏に對し御禮申し上げます。（1940.7.25）

天 の 川

兵火絶ゆ 敵陣かけて天の川
 天の川すちかひて彈それで飛ぶ
 菊河に公家衆泊りけり天の川
 温室の玻璃の曇りや天の川
 公館や夜々旺んなる天の川
 うちたく駒のかしらや天の川
 天の川色繪の扇流さまし
 山の温泉や裸の上の天の川
 うつくしや障子の穴の天の川
 地にあらば二股大根天の川

信
 欽 一
 燕 村
 喜 一郎
 曉 子
 去 來
 杉 風
 子 規
 一 茶
 抱 一